鉄鋼関連・流通加工

FUKUI GROUP発足

インスメタル、東洋鋼鉄が戦略的パートナーシップ

事業継承の「最適解」模索

販売・加工・技術革新を共同で

鋼板加工技術に長け、そのオリジナリティーを武器に独自路線を歩んできた独立系企業同士が、協業関係を組む。

コイルセンター（CC）とブランキング加工を主軸とする東洋鋼鉄（本社・千葉県浦安市港、社長・村上京子氏）と、各種レーザ加工や折り曲げ、溶接・製罐を手掛けるインスメタル（本社・千葉県浦安市鉄鋼通り、社長・福井英人氏）が同じ企業グループとなることが決まった。（1面参照）

8年前からアプローチ

きっかけは、村上社長の提案だった。2004年秋に50歳で社長に就任してから20年になる村上社長。跡継ぎの最有力候補だった長男・裕佑さんがグラフィックデザイナーとなり、後継を選ぶ過程で一時は社員を抜擢する道も考えたが「あまりに重責と思い、この重大な決定をイチから再考した」（村上社長）。

日頃から「従業員の未来と幸福が私の使命」と言ってはばからず、そのためにも「大資本などによるM&Aのような形態は視野に入れず『より個人的で意味ある方法での事業継承』を選択することにした」（同）。

何が最適解かを考え抜き、福井社長に「うちの経営をお願いしたい」とアプローチする。8年ほど前の話だ。

理由は、村上社長が心底信頼できる人物であり、企業経営者としての器量や才も熟知していることが大前提にある。両氏は、事業や業界団体活動なども通じて長年の交流があり、仕事面でも互いにアドバイスし合う間柄。

実際、インスメタルにとって東洋鋼鉄は冷延鋼板の仕入れ先であり、東洋鋼鉄もかつては量産だったが最近の需要構造変化でロットが細かくなった自動車部品について少量・非量産に不向きなブランク加工の一部をインスメタルにレーザ加工委託するなど協力関係を築いてきた経緯がある。

歴史を振り返っても、両社とも創業の地が東京・本所地区であり、今は浦安鉄鋼団地内を本拠とする。創業者も知り合い同士。共に機械好き、新しいモノ好きで、他社がやらない加工技術を先んじて手掛け、極めようとの探求心と開拓者精神が旺盛だったことなども共通する。それが、片やレベラーからブランキング

インスメタルの本社浦安工場㊤、東洋鋼鉄の本社工場

プレス、片やシャーリングからレーザの違いはあっても異形加工へのこだわりが強く、双方が「その道のパイオニア」と称されるほど。そのDNAを父から受け継いで共に20年という点でも、両社長の境遇は同じだ。

1＋1を3にも4にも

8年前から両社長の間でさまざまな話し合いを何度も行い、紆余曲折しながらも今回の戦略的パートナーシップ構築にこぎつけた。

新たに「FUKUI GROUP」を立ち上げ、その傘下に両社をフラットな形で並列。まずは社員間の交流や互いの事業活動理解などからスタートし、そこから営業面や加工面、物流面などで連携・協業できる道を模索し、それを武器に注文内容に応じた相互コラボで販路拡充、加工の深掘り、共同営業・共同配送などを検討していける素地・基盤を整える。両社の受注間口が広がり、納期対応力も高まれば、顧客満足度向上と市場競争力強化につながる。その一方で副資材の共同購入などコスト合理化も、両社では進めていける。

その先には、両社の優れた加工技術や豊富な設備群、その他オリジナリティーなども生かし合いながら新たな加工技術開発・ソリューションを創出し、提供していくことも視野に入れている。

「1＋1を3にも4にもする新しい形」での共創だ。

そして経営形態としては向こう1～2年のうちに福井社長が村上社長の後継を担い、初めてCC・ブランキング企業を指揮する。村上社長は会長として後方支援に回る。さらには来年から5年程度の時間をかけて東洋鋼鉄の株式も段階的にFUKUI GROUPが譲り受けていく方向で検討を進めている。

この点については村上社長の子息・裕佑さんとも話し合い、全関係者の納得・理解を得てグループ化を決めた。

ただ、そうなっても「両社が対等な協業パートナーであり続ける姿は変えず『東洋鋼鉄』『インスメタル』の名で互いに100年企業を目指す」と福井社長と断言する。

PV制作で家業に貢献

FUKUI GROUP発足に当たり、きょう25日から新たにプロモーションビデオ（PV）をインターネット上に公開（https://www.fukuigroup.jp）する。このPVは裕佑さんが共同代表を務めるブランディング専門のデザイン会社「3AND（スリーアンド）」が監修・制作。跡は継がなかったがこうして家業に関わりサポートしていくのも、DNAを継承する形の一つだ。

（太田　一郎）

FUKUI GROUP　組織概念図

FUKUI GROUP（www.fukuigroup.jp）

東洋鋼鉄	インスメタル
【本　　社】 千葉県浦安市港72	【本　　社】 千葉県浦安市鉄鋼通り1-7-1
【資本金】 4500万円	【資本金】 5000万円
【事業拠点】 本社工場（浦安第2鉄鋼団地）、浦安工場（浦安第1鉄鋼団地）	【事業拠点】 本社・浦安工場（浦安第1鉄鋼団地）、千葉営業所・工場（千葉市緑区）、東北営業所・工場（宮城県利府町）、神奈川営業所（厚木市）、標茶CADセンター（北海道）
【営業品目】 ブランキングプレス加工、ファイバーレーザ＆パンチプレス複合加工、プログレッシブ加工、レベラー加工、スリット加工	【営業品目】 平板レーザ加工、パイプ＆条鋼3次元レーザ加工、ウォータージェット加工、折り曲げ、溶接・製罐
【従業員数】 56人	【従業員数】 約130人
【売上高】 84億1800万円（2023年5月末時点）	【売上高】 約33億円（2023年10月末時点）
【備　　考】 運送子会社「鋼鉄運輸」をグループに持つ	【備　　考】 厚板（40㍉厚まで）やステンレス、非鉄金属の精密微細加工

戦略的パートナーシップ　両社が同じグループの下で対等かつフラットな新しい企業連携の姿